



[塩屋を写真で切りとる社会考察] 「塩屋百景」

塩屋を写真で検証するプロジェクト、1、「塩屋百景」=住人より持ち寄りの写真による、コンテストと展覧会と写真展（2006-07）、2、「塩屋百人百景」=参加型のまち歩き撮影会を実施、展覧会、写真集発行（2007-08）、3、「塩屋百年百景」=「塩屋の古い写真を募集します」そんな呼び掛けに（県外、国外！からも）多くの方が答えてくれました。多くの家族写真などから厳選した写真をひとつの町の家族アルバムとして写真集にまとめました（2008-10）。「塩屋百人百景」「塩屋百年百景」の展覧会は各地で開催を続けています。（そして多くの人に塩屋の雰囲気伝えていきます。）また、「塩屋百人百景」の試みはその後、京都「大山崎百人百景」「岡崎百人百景」として他地域でも広がりを見せています。4、「塩屋百人百想（窓）」=塩屋への想いを綴った文章を募集しています。いい文章がいい量に達すればに書籍化予定です。また、別プロジェクトである「しおやあれやこれや」の内容もこの「想い」として同封します。

■「塩屋百人百景」塩屋の魅力を取りつぐせ！インスタントカメラで斬り撮る塩屋まち歩き撮影会。

神戸市の西南に位置し、六甲山脈の西端、鉢伏山が海に迫る町、塩屋。文豪ウィリアム・サマセツト・モームの短編小説『困ったときの友』にも登場する、明治時代から知る人ぞ知る土地でした。この地名はかつてここで塩がつくられていたことに由来し、漁業や海苔の養殖は現在も盛んです。春には名産「いかなごの釘煮」の匂いが町一体を包み、神戸の中心地からわずか15分とは思えぬローカルさを保持した町です。駅前小さく重なり合う塩屋商店街は、昭和初期の懐かしさを残しており、今では貴重な文化遺産の美しさ。傘をさした二人の人がすれ違うのが難しいほどの細い道に、豆腐屋をはじめとする個性溢れる商店が軒を連ねています。一方で、明治時代より海辺には異人館が建ち並び、昭和初期には山の手にジェームス山と呼ばれる外国人の集落が造成されました。その名残である、旧ジェームス邸、旧ジョネズ邸、旧グッゲンハイム邸、旧後藤邸などの現存する異人館は、塩屋の町並みにダイナミズムを加えています。年を経た建造物の取り壊しや高層マンションの建設が進み、道路拡張が叫ばれる今、この町の未来を考える為にも、塩屋の魅力をもて切り取って保存したいという思いで、この撮影会を実施いたします。なお、回収したフィルムは全てそのまま現像/プリントし、旧グッゲンハイム邸にて展示し、作品集も制作します。

2007年12月16日（日）120人参加 / 2008年2月展覧会 / 120人 x 27枚 3240枚全てを収めた写真集発行

■「塩屋百年百景」神戸、塩屋の昔の写真を広く求めます。そして、その写真を一冊の本にまとめます。

神戸、塩屋の昔の写真を広く求めます。そして、その写真を一冊の本にまとめます。昔懐かしい写真、今では考えられないエキゾチックな光景、駅前商店街今昔、ジェームス山今昔、異人館群、漁村、海水浴、山登り、とっておきの写真、ちょっといい記念写真。押入れて、本棚で埋もれている写真。塩屋のいい写真をまとめた写真集の為に是非御一報ください。大きな開発を逃れ、いまだ人間サイズの町としての魅力に溢れた塩屋も、年々変化を遂げ近年では大規模マンションの建設も著しく山の緑も失われつつあります。それを食い止める為、この取り残された町の貴重さを再認識していただく為、何よりもこの小さな町にはありえないほどのバラエティを一冊の本にまとめてみたいのです。

こんな呼びかけに沢山の方が呼応してくださいました。その記録であり、一つの大きな家族としての町の記憶です。2008年9月-2009年12月 写真募集 / 2010年3月展覧会 / 写真集発行

